

発行日：2018年07月10日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：サラセーヌSB

製品番号(SDS NO)：SDS01659-3

製品種類：環境対応型1液湿気硬化型ウレタン塗膜防水材

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途：建築用塗膜防水材

供給者情報詳細

供給者：AGCポリマー建材株式会社

住所：東京都中央区日本橋人形町1-3-8

電話番号：03-6667-8421

FAX：03-6667-8431

作成担当部門：品質管理グループ

緊急連絡先：AGCポリマー建材株式会社

電話番号：03-6667-8421

問い合わせ先：研究開発部

電話番号：0480-22-6300

FAX：0480-25-4012

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体：区分 3

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分 2

生殖細胞変異原性：区分 2

発がん性：区分 1A

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：区分 2(呼吸器、免疫系、腎臓)

(注)記載なきGHS分類区分：該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気

強い眼刺激

遺伝性疾患のおそれの疑い

発がんのおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

注意書き

安全対策

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

熱/火花/裸火/高温などの着火源から遠ざけること。一禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- 保護手袋及び保護面を着用すること。
- 保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 指定された個人用保護具を使用すること。

応急措置

- 火災の場合: 指定された消火剤を使用すること。
- 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。

保管

- 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- 施錠して保管すること。

廃棄

- 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

物理的及び化学的危険性

- 燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

3. 組成及び成分情報

混合物/単一化学物質の選択 : 混合物

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号
可塑剤	10 - 20	登録済み	登録済み
石油系炭化水素	1 - 10	登録済み	登録済み
二酸化チタン(ナノ粒子以外)	1 - 10	13463-67-7	1-558
結晶質シリカ	1 - 10	14808-60-7	1-548
ジオクチルスズジラウレート	1未満	3648-18-8	2-2252;3-3424

注記: これらの値は、製品規格値ではありません。

4. 応急措置

応急措置の記述

皮膚(又は髪)に付着した場合

- 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。

眼に入った場合

- 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

- 安静にして直ちに医師の診断を受けること。

応急措置をする者の保護

- 救助者は適切な保護具(保護メガネ、防護マスク、手袋等)を着用する。
- 適切な換気を行う。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

不適切な消火剤

水(棒状水、高圧水)

特有の危険有害性

火災によって刺激性、有毒及び/または腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

安全な距離から散水冷却して周囲の設備を保護する。

消火活動は風上より行う。

付近の可燃性のものを速く周囲から取り除き、保護具を着用して消火する。

危険でなければ火災の区域から容器を移動する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。

周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、目に入らぬよう保護具を着用する。

密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。

取扱い後は手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。

休憩所には、手洗い、洗眼などの設備を設け、取扱い後に手・顔等を良く洗う。

過去に、アレルギー症状を経験している人は取り扱わないこと。

(火災・爆発の防止)

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

注意事項

製品を運搬または貯蔵する時は、容器に破損のないことを確認する。

製品を長期に亘って貯蔵し、或いは製品を取り出し混合する等の作業を行う場合は地下浸透や汚染等を防止するため、シート等を敷いて行う。

安全取扱注意事項

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

保護手袋及び保護面を着用すること。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

本来の用途以外に使用しないこと。

容器はその都度密栓する。

屋外または換気の良い場所で取り扱う。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/顔面保護具/呼吸用保護具を着用する。(詳細は第8章「ばく露防止及び保護措置」の保護具の項を参照。)

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

子供の手の届かないところに保管する。

製品を長期に亘って貯蔵し、或いは製品を取り出し混合する等の作業を行う場合は地下浸透や汚染等を防止するため、シート等を敷いて行う。

長期間の貯蔵には定期的な点検も必要となる。

屋外に保管する場合は、容器に雨水等の接触がないように防水シートでおおう。

配合禁忌

指定材料以外と混合してはならない。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

(二酸化チタン (ナノ粒子以外))

日本産衛学会(2013) 0.3mg-ナノ粒子/m³

(結晶質シリカ)

日本産衛学会(2006) 0.03mg/m³

(二酸化チタン (ナノ粒子以外))

ACGIH(1992) TWA: 10mg/m³ (下気道刺激)

(結晶質シリカ)

ACGIH(2009) TWA: 0.025mg/m³(R) (肺繊維症; 肺がん)

(ジオクチルスズジラウレート)

ACGIH TWA: 0.1mg-有機Sn/m³

STEL: 0.2mg-有機Sn/m³ (眼および上気道刺激; 頭痛; 吐気;

中枢神経系および免疫系影響)

注釈(症状、摂取経路など)

(ジオクチルスズジラウレート)

皮膚吸収

ばく露防止

設備対策

屋内塗装作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備にすること。

洗眼、手洗い、洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

有機ガス用防毒マスクを着用する。

密閉された場所では送気マスクを着用する。

手の保護具

有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

眼の保護具

保護眼鏡/安全ゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護服(長袖作業着)、安全靴

取り扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态

形状：液体

色：グレー系

臭い：溶剤臭

pH：知見なし

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点：155°C

融点/凝固点データなし

分解温度データなし

引火点：(セタ密閉式) 55°C

自然発火温度：380°C

爆発特性：引火又は爆発範囲

下限：0.4vol %

上限：6.0vol %

比重/密度：知見なし

溶解度

水に対する溶解度：知見なし

n-オクタノール/水分配係数データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

湿気と反応し硬化する。

化学的安定性

開封状態では空気中の湿気と徐々に反応し、表面より固化する。

避けるべき条件

直射日光、炎、火花、加熱、高温を避ける。

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

(二酸化チタン (ナノ粒子以外))

rat LD50 > 5,000 mg/kg (SIDS, 2015)

(可塑剤)

rat LD50 > 9,800 mg/kg (EU-RAR (2003))

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

(二酸化チタン (ナノ粒子以外))

hamster LD50 > 10,000 mg/kg (HSDB (Access on May 2016))

(可塑剤)

rabbit LD50 > 3,160 mg/kg (EU-RAR (2003))

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]
(二酸化チタン (ナノ粒子以外))
dust : rat LC50>5.09 mg/L (SIDS (2015))

局所効果

眼に対する重篤な損傷・刺激性
[会社固有データ]
(可塑剤)
ウサギ 0.1ml/72H ごく弱い刺激

感作性データなし

生殖細胞変異原性

[日本公表根拠データ]
(結晶質シリカ) cat.2; SIDS, 2013

発がん性

[日本公表根拠データ]
(二酸化チタン (ナノ粒子以外))
cat.2; IARC (93, 2010) Gr.2B et al
(結晶質シリカ)
cat.1A; IARC (100C, 2012) Gr.1 et al
(二酸化チタン (ナノ粒子以外))
IARC-Gr.2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない
(結晶質シリカ)
IARC-Gr.1 : ヒトに対して発がん性がある
(結晶質シリカ)
ACGIH-A2(2009) : ヒト発がん性の疑いがある
(ジオクチルスズジラウレート)
ACGIH-A4 : ヒト発がん性因子として分類できない
(二酸化チタン (ナノ粒子以外))
ACGIH-A4(1992) : ヒト発がん性因子として分類できない
(結晶質シリカ)
日本産衛学会-1 : 人に発がん性があると判断できる物質
(二酸化チタン (ナノ粒子以外))
日本産衛学会-2B : 人におそらく発がん性があると判断できる証拠が比較的十分でない物質

生殖毒性

[日本公表根拠データ]
(可塑剤) cat.2; rat : EU-RAR (2003)

催奇形性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]
(二酸化チタン (ナノ粒子以外)) 呼吸器 (SIDS, 2015)
(結晶質シリカ) 呼吸器、免疫系、腎臓 (SIDS, 2013)

吸引性呼吸器有害性データなし

その他情報

商品として危険有害性評価を行っていません。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

水生毒性(急性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(結晶質シリカ)

甲殻類(オオミジンコ)LL50 > 10000 mg/L (SIDS, 2013)

(可塑剤)

魚類(ファットヘッドミノー)LC50 >= 0.14 mg/L/96hr;

甲殻類(オオミジンコ)EC50 >= 0.086 mg/L /48hr(EU-RAR, 2003)

(二酸化チタン (ナノ粒子以外))

甲殻類(オオミジンコ) EL50 > 100mg/L/48hr (SIDS, 2015)

水溶解度

(二酸化チタン (ナノ粒子以外))

溶けない (ICSC, 2002)

(結晶質シリカ)

溶けない (ICSC, 2010)

(可塑剤)

< 0.01 g/100 ml (20°C) (ICSC, 2004)

残留性・分解性

(可塑剤)

BODによる分解度: 74% (既存点検, 2002)

生体蓄積性

(可塑剤)

log Pow=8.8 (ICSC, 2004)

土壌中の移動性データなし

オゾン層破壊物質データなし

その他情報

※漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与える恐れがあるので取扱に注意する。特に、製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄する際は、関連法規及び地方自治体の規則に従うこと。

廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき処理を行なう。

廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約(マニフェスト)をして処理する。

容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

廃水処理等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。

汚染容器及び包装

環境に配慮し、空容器は内容物を完全に除去後、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

番号 : 1866

品名(国連輸送名) : 樹脂溶液

国連分類(輸送における危険有害性クラス) : 3

容器等級 : III

指針番号 : 128

特別の安全対策

陸上輸送: 消防法、労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運搬方法に従うこと。

海上輸送: 船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空輸送: 航空法の定めるところに従うこと。

容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

「取扱いおよび保管上の注意」の項の記載に従うこと。

直射日光、雨に暴露されないように運搬する。

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

有機溶剤等に該当しない製品

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

結晶質シリカ(別表第9の165の2); 二酸化チタン (ナノ粒子以外)(別表第9の191)

名称通知危険/有害物

結晶質シリカ(別表第9の165の2); 二酸化チタン (ナノ粒子以外)(別表第9の191);

ジオクチルスズジラウレート(別表第9の322)

別表第1 危険物 (第1条、第6条、第15条関係)

危険物・引火性の物 (30°C ≤ 引火点 < 65°C)

化学物質排出把握管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法

第4類 引火性液体第2石油類非水溶性液体 危険等級 III(指定数量 1,000L)

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 19th edit., 2015 UN

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)

2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2017 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012年)

JIS Z 7252 (2014年)

2017 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

原材料/製品メーカーSDS

国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版

社団法人日本塗料工業会「GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック[混合物用(塗料用)]改訂第3版」

独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) <http://www.nite.go.jp/>

責任の限定について

すべての化学品には未知の有害性がありうる為、取扱いには細心の注意が必要です。

この情報はこの特定の材料に関するものであり、この材料が他の材料と組み合わせられたり、処理されたときは無効です。この情報を自分自身の独特な取扱いに適合させ完全で満足できるものとする責任はユーザーにあります。

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

安全データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。